



コレクション展 2019 - 秋



1. 今尾景年 芦水禽図 明治年間 顔料、絹
滋賀県立近代美術館



特集展示 滋賀県立近代美術館所蔵品より

みやこの洗練 明治の京都画壇



2. 前川千帆 温泉宿 1940 (昭和15) 年頃
木版、紙 当館蔵



特集展示 生誕 130 年記念

せんぱん 前川千帆の版画

2019年9月10日[火]—10月20日[日]

和歌山県立近代美術館

〒640-8137 和歌山市吹上 1-4-14

TEL 073-436-8690 FAX 073-436-1337

E-MAIL moma_w@future.ocn.ne.jp WEB <http://www.momaw.jp/>

コレクション展 2019 - 秋

2019年9月10日(火)～10月20日(日)

和歌山県立近代美術館のコレクション展では、日本画・洋画・彫刻・版画など、総数1万点を超える所蔵品を通じて幅広い美術の表現に接していただけるよう、季節ごとに展示を替え、作品紹介を続けています。また、滋賀県立近代美術館が大規模な増築・改修を行うにあたり、その休館期間中、同館が誇るコレクションの一部を当館で公開することとなりました。

本展覧会は、ふたつの近代美術館のコレクションにより近現代美術の流れをご覧いただけるよう構成し、日本画・版画の特集展示も設けて、約160点の作品を展示します。

【特集 みやこの洗練 明治の京都画壇】では、主に滋賀県立近代美術館のコレクションから、明治期を中心に展開された京都の日本画家による作品を取り上げ、【特集 せんぱん まえかわせんぱん 前川千帆の版画】では、生誕130年を記念して、漫画家として知られ、版画の世界でも活躍した前川千帆の作品を紹介します。



滋賀県立近代美術館所蔵品より

みやこの洗練 明治の京都画壇



3.山元春挙 法塵一掃 1901(明治34)年
顔料、絹 滋賀県立近代美術館

現在、滋賀県立近代美術館が大規模な増築・改修をおこなうにあたり、その休館中に同館のコレクションの一部を当館で公開しています。この特集展示では、同館の日本画コレクションから、明治期を中心に活躍した京都の日本画家たちの作品を紹介します。

幕末の動乱により市街が荒廃し、天皇とともに美術の中心地も東京へ移った明治維新前後の京都では、南画家を除いて、多くの画家の需要が減り、経済的な困難を強いられました。そんな中、1866(慶應2)年頃、森寛齋や岸竹堂、今尾景年ら京都の有力な日本画家による団体として如雲社が成立し、彼らは流派を超えて結束を強めようと試みます。1880(明治13)年には、田能村直入らが京都府画学校を開校させ、従来の画塾中心の教育とは異なる、学校による美術教育を展開する一方、幸野樗嶺塾から竹内栖鳳や谷口香嶠、寛齋の画塾からは山元春挙らが輩出され、明治20年代半ばから新進気鋭の画家が、博覧会や展覧会等で全国的にめざましい活躍を遂げました。彼らは円山・四条派の画家として、洗練された技巧によって目に見えるものを活写する写生と、抒情性豊かな表現を重んじながら、ときには他の画派や西洋の絵画も参考にしつつ、流派の枠にとどまらない表現の創出を目指しました。彼らの進取の気風や制作に対する貪欲な姿勢は、やがて1918(大正7)年に野長瀬晩花らにより創立される国画創作協会へと継承され、大正期には東京の美術界をも巻き込んで、日本画革新の動きを生み出すこととなります。

今回は、伝統と革新の相克の中で繰り広げられた幕末から明治末頃までの京都の日本画を、約20点の作品と関連資料によりご紹介します。



4.岸竹堂 保津峡図 1892(明治25) 顔料、紙 滋賀県立近代美術館



主な出品作品

特集展示

生誕 130 年記念

せんぱん 前川千帆の版画

大正・昭和期に活躍した版画家・漫画家^{まえかわせんぱん}前川千帆（1888～1960）の生誕 130 年を記念して、当館コレクションを中心にその版画作品をご紹介します。

1888（明治 21）年、京都市に生まれた千帆（本名・石田重三郎）は、1907（明治 40）年、関西美術院に入り、浅井忠や鹿子木孟郎に洋画を学びます。

1911（明治 44）年には上京して、翌年、東京パック社や読売新聞社などに勤め、ジャーナリズムの世界で活躍しました。特に、1930（昭和 5）年から 1933（昭和 8）年まで『読売新聞』の「読売サンデー漫画」に連載した「あわてものの熊さん」で一世を風靡し、漫画家として知られることとなります。

一方、1912（大正元）年^{みなみくんぞう}に南薫造の作品に感化を受けて版画制作にも着手します。1919（大正 8）年には、日本創作版画協会の第 1 回展に出品し、この頃から本格的に版画家としての活動をスタートさせました。以後、日本創作版画協会の後身である日本版画協会や、帝国美術院展覧会（帝展）などの官展、春陽会展等での発表を重ね、版画界における重要人物のひとりとして、日本の近代版画の発展に貢献しました。

本人は自らの地位を「虚名」と謙遜しますが、謙虚な人柄そのままに表現された素朴な作風や、市井に生きる人々などを温かいまなざしで捉えた作品は、広く愛されました。戦下の非常時でも、その屈託^{やわ}のなさは変わることなく、彼は展覧会^{ほんかい}の挨拶^{あいさつ}の中でも、「何かとたゞ事でない今日此頃、さし迫つた心もちの中に、一脈^{いちみづ}の和らかさをおくみとり願へれば望外の幸であります」と語っています。

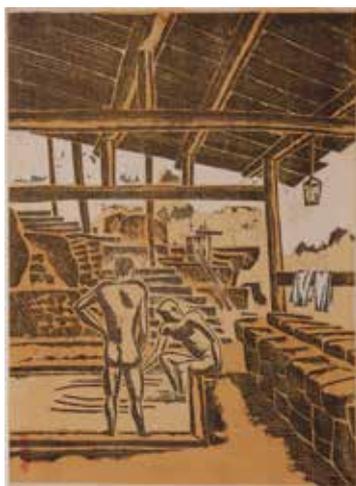
千帆については、1977（昭和 52）年に「前川千帆名作展」（リッカー美術館）がなされたものの、その後大きく取り上げられることはありませんでした。本展覧会で改めて紹介する約 70 点の作品と関連資料によって、版画家・前川千帆の「和らか」な魅力をぜひご覧いただきたいと思います。



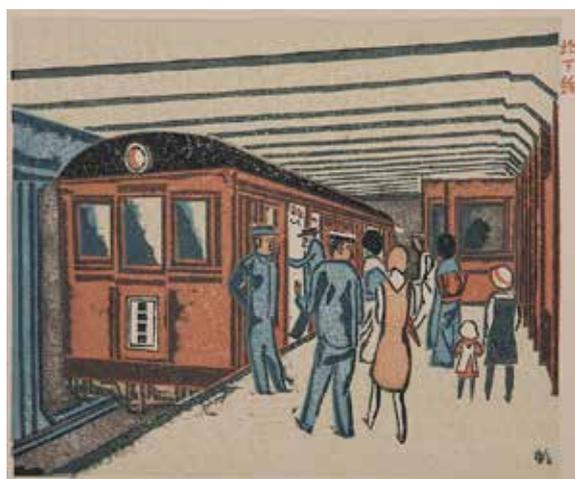
5.『閑中閑本 第廿七冊 閑本工程帖』1960（昭和 35）年より
版画を摺る前川千帆 木版、紙 個人蔵



6.前川千帆『風』再刊第1号「百姓」
1929（昭和 4）年 木版、紙 当館蔵



7.前川千帆 温泉 1933（昭和 8）年
石版、紙 当館蔵



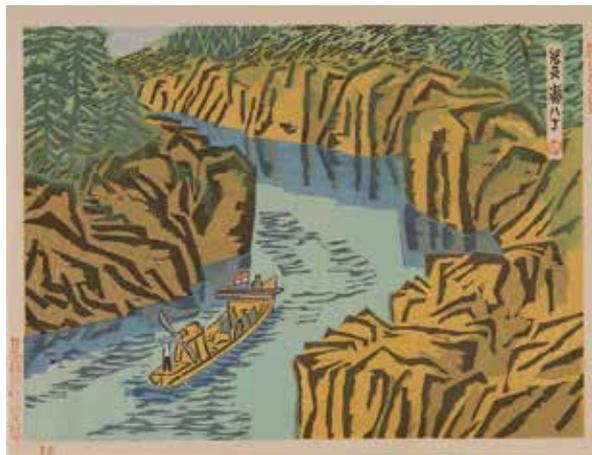
8.前川千帆『新東京百景』第 3 輯第 22 号「地下鉄」
1931（昭和 6）年 木版、紙 当館蔵



主な出品作品



9.前川千帆 『風』再刊第2号「野外小品(酒)」 1929(昭和4)年
リノカット、紙 当館蔵



10.前川千帆 『新日本百景』「瀬八丁」 1938(昭和13)年
木版、紙 当館蔵

関連事業

「せんぱん 前川千帆の版画」

●フロアレクチャー（担当学芸員による展示解説）

【日時】9月21日（土）、10月14日（月・祝）14時から 1階展示室にて（※申込不要、要観覧券）

●スライドレクチャー（担当学芸員によるスライド解説）

「せんぱんさんのお仕事ー前川千帆の人と画業ー」

【日時】10月19日（土）14時から 2階ホールにて（※申込不要、聴講無料・13時30分開場）

開催概要

会場	和歌山県立近代美術館 1階展示室
会期	2019年9月10日（火）～10月20日（日）
主催	和歌山県立近代美術館
開館時間	9時30分～17時（入場は16時30分まで）
休館日	月曜日（9月16日、23日、10月14日は開館し、9月17日、24日、10月15日が休館）
観覧料	一般 340（270）円、大学生 230（180）円 ※消費税変更に伴い10月1日より 一般 350（270）円、大学生 240（180）円 *（ ）内は20名以上の団体料金 *高校生以下、65歳以上の方、障害者、県内に在学中の外国人留学生は無料 *毎月第4土曜日（9月28日）は「紀陽文化財団の日」として大学生無料

掲載用画像については、**広報担当**にお問合せ下さい。

文字のせ、トリミング等をご遠慮ください。

【同時期開催】

企画展「時代の転換と美術「大正」とその前後」

【会期】9月18日（水）～10月20日（日）

【会場】2階展示室

【おとなり博物館の展覧会】

企画展 真景図 旅する画家が見た風景 8月31日～10月6日

特別展 徳川頼宣と紀伊徳川家の名宝 10月19日～11月24日

和歌山県立近代美術館

学芸担当：藤本真名美 / 広報担当：和佐

〒640-8137 和歌山市吹上 1-4-14

TEL 073-436-8690（代表）

FAX 073-436-1337

E-MAIL moma_w@future.ocn.ne.jp

WEB <http://www.momaw.jp/>